

幼児教育から見た リトミック

高松 弥生子

一．ひとつの反省

リトミックを通じて、子どもたちと付き合うようになって、五年になります。

私が、幼稚園の先生をしていた頃、いつも自分の中で、「おかしいな？」と黙っていた事。おかえりの時間、黒いピアノにむかって必死に伴奏を弾く「私」と声を張り上げて宙を見つめて歌う子どもたち。楽しいはずの「手あそび」は、静かにさせるためのテクニク。もっとどうにかできないかしら、と思いつつも、忙しい毎日。行事の前になると、歌や踊りの練習は、もっとすさまじいものになっていました。

今の自分を考えると、あの時の反省があるから、今こうして、「リトミックを知りたい！ 子どもたちにも、伝えたい！」と思う自分がある様に思います。ところで、皆さんはリトミックをご存じでしょうか？

「音楽・リズムの事でしよう、小さいこどもの…

…

「ぞうさんになったり、りすさんになったりするアレでしょう？」

「楽器も使って、歌も歌って楽しくて、こどもにいいみたい」

うん、うん。私の感じているリトミックの魅力は、目にみえない「魂」です。とあって、五年くらいかじって、偉そうに説明するなんて、おこがましい！

そこで、今回は、私がどんなふうにかどもたちと過ごしているのかを紹介しながら、音楽を通して学んでいくリトミックに、ほんの少しでも興味をもって頂けたらいいなと思っています。できるだけわかりやすい目標を、と思って思いついたのは、「だんだんおおきく、だんだんちいさく」です。

▲ついでとって、あたまあたま



カット・筆者

二. だんだんおおきく、だんだんちいさく

音楽の時間で習った「 \wedge \vee 」の記号。

頭でわかっているこの記号の意味を「頭だけでなく、身体も使って知っていこう」とするのが、リトミックです。

こどもたちは、(ピアノを習っている数人を除けば)この記号を知りません。三歳くらいのことでも、「だんだん……」なんて説明してもポカーンとしていただけなのは、皆さんもよくご存じだと思います。

でも、なにかの合図で、できるだけ早く「ちいさくなったり、おおきくなったり」するのは、大好きです。これが、第一段階です。この経験を何度も繰り返し返します。この「何回も、繰り返しして経験すること」は、リトミックの大事にしている事です。同じ事をただ繰り返し返すのではなく、この場合だったら、「何かの合図で」というところで指導する者が、自分なりに工夫して考えていく事が大切です。いつも同じでは、何かの訓練と同じになってしまいますから。

さて、「大きくなった時」足先から頭先まで、自分の身体は、筋肉は、どうなっているのか

しょう。経験の少ないこどもほど、十分に大きくなったり、できるかぎり小さくなったりするのは、難しいことです。

「もっと大きく、もっと大きく」「もっと小さく、もっと小さく」と声をかける事で、こどもたちの身体は、どんどん大きく、また小さくなっていきます。そうやって、こどもの持っている力の後押しをするのが、私の役目だと思っています。

一緒にいて思うのは、小さいクラスほど、時間的には短くとも、繰り返し、ゆっくり、わかりやすく体験する事が、必要だという事です。

いよいよ第二段階。「だんだん……」に入りましょう。この「だんだん」は、毎年おもしろい様に、同じ事が起こります。

こども (小さくなってうずくまっている)

私 たいこの音でだんだん大きくなります

ヨ。(たいこ鳴る)

こども (シーン。そのままうずくまっている)

私 (一人だけで大きくなりながら) おー



い、おーい………?

こどもたちには、言葉だけでは、わからないのですね。「だんだん小さくなる」方が、ずっと楽な様です。「だんだん大きくなる」には、よほど我慢しないと「だんだん」にはなりません。頭と身体を集中させないと、たどり着けません。よく見ると、最初と最後だけ合わせているこども、早く飛び出し過ぎて、恥ずかしそうにしているこどもがいます。自分の気持ちと身体がなかなか一つになりません。

わかってもらうためには、いろいろな方法で感じてもらおう様に工夫します。花がだんだん大きくなっていく感じ、ジャックと豆の木のはなしをみんなでする、大きな壁に上下にゆっくりペンキ塗り、エレ

ベーターになってみる、とか。そこに、ぴったりで、きれいな楽しい曲が流れていたら、どんなにおもしろいでしょう!

大切なのは、「この時」の身体を感じです。

「 」を見て、「知ってる、知ってる!」ではなくて、みんなと楽しく身体を動かした体験の

▼カラーボードをつかって



中で、どんな感じだったのか覚えていて欲しいと思います。そして、もし、大きくなってこの記号に出会った時、この感じを表現してもらえたらいいな、と思います。

音楽のためのリトミックは、目に見えない内面への問いかけが一杯です。

三、リトミックの伝えるもの

リトミックには、「調和する」という意味があるそうです。これは頭と身体がひとつになって「調和して」はじめて理解した事になるというものです。知育偏重ではない、こういうところも、リトミックの魅力の一つでしょう。

子どもたちと話している事に、もう一つの「調和」があります。それは、部屋のみんなが調和する事、仲良くする事。よく輪になって座るのですが、初めは、自分が自分かと一人ずつ前に出てきて丸く

なれないのが、少しずつ、まわりの中の自分の位置や入れない人がいないかなど、気を付ける様になります。

部屋の中では、「ひととおなし」ではなく、「自分だけにしかできない」動き、表現を大切にしたい。そのためには、ひとりひとり大切な友達である事を知っていて欲しいのです。「へんなの！」の一言で、友達でなくなるのは、残念です。私の言葉かけひとつひとつも、部屋の空気をつくっている事に関心をつけたと思います。

こうして書いていくと、リトミックは決して子どもたちばかりのものではないし、音楽をしている人ばかりのものでもない事がおわかり頂けると思えます。

○ 頭だけでなく、からだを動かしてひとつになる事で、理解を深める。

◀ テニスボールをつかって



この事は、子どもを育てる、教育、に関わる全ての人にとって、あたりまえの事でありながら、なかなか実現できないでいるのが現状ではないでしょうか。

またもう一方では、私自身を含めて、保育者にもりがちないくつかの反省もあります。

○ ことも向けの幼い動きと発声。(どうして、ぞうさんの動きはいつもお鼻がブラブラなのでしょう？ どうして、木は背伸びをしておててキラキラなのでしょう？)

指導者が、いつも同じ動きに甘えていると、子どもたちも同じような動き、雰囲気になかならないと思います。

○ 幼稚園風ピアノ伴奏。

ただ弾けばいいのではなく、ひとつひとつの音を大切に、その音にあった、雰囲気にあった伴奏を用意しましょう。何も名曲(迷曲?)を弾くことはあ

○ こどもの興味・発達に合ったものを用意して、何度も経験する。

○ ひとりひとりを大切に、そのこどもの持っている力の後押しをする。



らでしょう。リトミックの魅力にとりつかれながら、「これでいいのか、これでいいのか?」と問いかげずにはいられないのは、この「怖さ」があるからだと思います。

音楽に対する知識の不足に、勉強する事は山ほどあって、「おわり」はなさそうです。

毎週、毎週、にこにこ元気になだれこんでくる子どもたち、黙って暖かく見守ってくださるお母様方に支えられて、絶えず学んでいくことを忘れずに、細く長く私のリトミックを続けていければと思っています。

最後に、たくさんの先生方が、全国各地で、リトミックの普及に努められています。ひとりでも多くの方が、リトミックを体験してくださる事を願っています。

(広島市在住)

りません。

こうして考えていくと、自分自身をよく見つめ直して、絶えず新しく生まれ変わっていないと、「子どもだまし」で終わってしまうことがわかります。

リトミックが、子どもたちだけのものではないのは、「表現する事」保育者自身、指導者自身」だから、